玉野市 文化財地図

〜 たまのし ぶんかざい ちず 〜

玉野市 文化財地図

平成23年10月発行
平成26年　3月改訂
平成30年　3月改訂
令和　3年　5月改訂
令和　4年　9月改訂
令和　5年　5月改訂
令和　6年　6月改訂
令和　8年　2月改訂

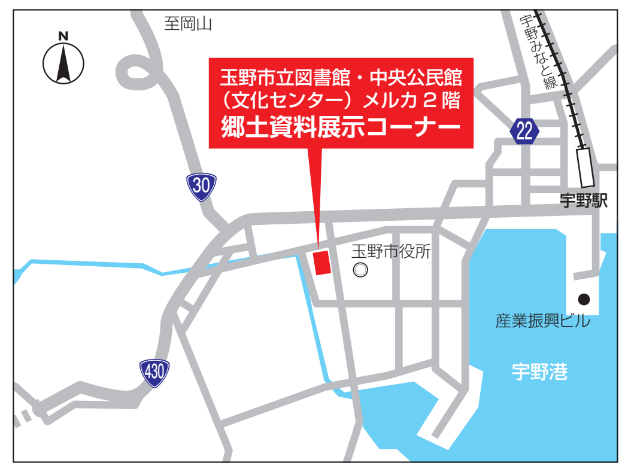
編集・作製／玉野ロータリークラブ
協　　力／玉野市文化財保護委員会
発　　行／玉野市教育委員会

郷土資料展示コーナー

所在地	〒706-0011 岡山県玉野市宇野１丁目38番１号 玉野市立図書館・中央公民館（文化センター） 天満屋ハピータウン メルカ２階
電　話	0863-31-3711

利用案内

入場料	無料
開館時間	午前９時から午後９時まで
休館日	毎週月曜日、年末年始、特別館内整理期間



岡山県指定文化財

1 高心の墓（こうしんのはか）

S34.3.27 指定

西湖寺跡のお堂の中にある。正面に「沙弥高心幽霊之位」(僧、高心の魂のやどるところ)と刻まれ、別の面に至徳２年(1385)という南北朝時代(北朝)の年号が残っている。 砂岩製で、全高236㎝、台座、台、塔身、笠・うけ花・宝珠からなるいわゆる笠塔婆であるが、ことに笠部分は特殊な形をしている。高心は南朝の武将と伝えられている。

2 不動明王二童子画像（ふどうみょうおうにどうじがぞう）

蓮華庵

S35.4.26 指定

一見、白描(線だけで描くこと)の仏画に見えるが、赤外線撮影の結果、版画と判明した。不動明王の足元に見られるのが二童子で、左がせいたか童子、右がこんがら童子と呼ばれる不動明王の脇侍である。上部に、不動明王画像を生涯描いたと伝えられる室町初期の禅僧、周澤の讃文がある。

3 木造冥界群像（もくぞうめいかいぐんぞう）

正蔵院　H10.3.24 指定

閻魔大王を主とする冥界の10人の王たちが司令、司録を従え、死者が生前に行った行状を調べている。死者は善行、罪の軽重により六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天)のいずれかに送られる。安永9年(1780)近隣の檀徒、信徒から寄進された。

4 秀天の石橋（しゅうてんのいしばし）

H20.3.7 指定

長さ36m、幅3m、18世紀半ばに架けられた岡山藩で1番長い石橋である。橋脚(35㎝角)は3本1組で8か所あったが、現在は、両端が護岸の中に包まれている。基礎は一面に石張りで保護し、少し下流に「床止め」を施し洪水にも洗われないように工夫している。

5 宮川樋門（みやがわひもん）

H20.3.7 指定

干拓事業の中で明治33年(1900)頃、樋門とそれに連なる堤防が築造された。通水部にレンガアーチを採用し、定形的に加工された花崗岩を使用している。切石積に笠を載せた灯籠風の樋柱を持ち、こうした樋門は、明治期のこの地区に限定されている。

玉野市指定文化財

6 八浜のだんじり（はちはまのだんじり）

H30.3.6 指定

八浜八幡宮の祭礼に使われる山車(だんじりのこと)で、総ケヤキ造りで２台のだんじりがある。元文５年(1740)岡山藩士が視察、この頃にも２台あったとされる記録がある。

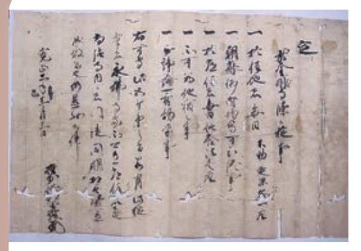
7 不動明王立像（ふどうみょうおうりゅうぞう）

金剛寺　S33.1.9 指定

像高45㎝、木造寄木造り漆仕上げ。一部截金(金箔を細かく切ったもの)手法や彩色をほどこした、室町仏である。脇侍のこんがら童子、せいたか童子も当時のままである。

8 金剛寺文書（こんごうじもんじょ）

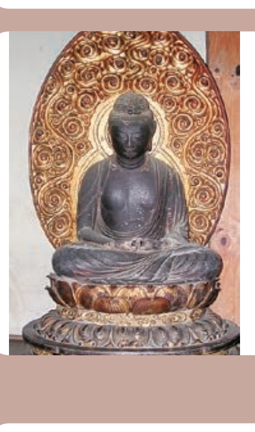
金剛寺　S33.1.9 指定



応永31年(1424) １通と寛正２年(1461) ２通の古文書が残っている。寺に住む者の、日常の心構えを知る上で興味深いものである。

9 阿弥陀坐像（あみだざぞう）

金剛寺　S41.6.9 指定



室町時代初期の作とされ、像高60㎝、桧材寄木造漆仕上げである。もとは漆箔(仏像の上に漆を塗り、金箔を押したもの)仕上げの像と思われる。ふくよかで、胸の豊かさなど女性を思わせる優雅さがある。

10 八浜八幡宮棟札（はちはまはちまんぐうむなふだ）

八浜八幡宮　S33.1.9 指定

〈赤外線〉

応永34年(1427)と天正14年(1586)の2枚が指定されている。応永の棟札裏面に文明6年(1474)、永正12年(1515)の改修の記録が確認できた。応永34年に、元川谷から八幡宮が現地に移転新築されたことが判る。

11 快神社本殿（こころよしじんじゃほんでん）

S49.12.26 指定

総ケヤキの一間社流造り檜皮葺の造りで、彫刻の巧妙さと豊かさが知られている。雌雄の竜、鶴と亀、昇り竜、降り竜、二見浦の日の出、二股蕪と鼠の彫り物がある。

12 八浜の秋祭り（はちはまのあきまつり）

H21.6.1 指定

獅子と宰領(監督のこと)が先導し、鋏箱を受け渡す４人、毛槍を受け渡す12人の奴、太鼓、神輿、大勢の大人、子供が練り歩く。神輿は「六角神輿」で、元禄11年(1698)作の鏡が取り付けられる。

13 波知の獅子舞（はちのししまい）

S57.3.18 指定

雌雄２頭の獅子がたわむれる古式ゆかしい「獅子舞」で250年の歴史を持つ。伊勢大神楽(伊勢神宮に奉納する神楽)の影響のもと、子孫繁栄、五穀豊穣を願って八幡宮の祭礼に奉納されてきた。

14 聖観音立像（しょうかんのんりゅうぞう）

蓮光院　S41.6.9 指定

像高１m、桧材寄木造り漆仕上げで、左手に蓮華、右手は与願印を結び、頭には玉をちりばめた宝冠をいただく(宝冠は修復されていることが多い)。均整のとれた衣紋の流れはこの地区にのこる平安時代末から鎌倉時代作の観音像の面影をとどめている。

15 道清夫婦の墓（どうせいふうふのはか）

S36.3.27 指定

花崗岩製の五輪塔で、高さ150㎝の夫婦墓である。左側には「妙心禅定尼霊」「慶長三年(1598)□月□日」と刻まれている。伝承にいう常山城主、上野隆徳の末娘の墓である。右側は夫「道清禅定門」とある、没年は判読不明である。

16 山下家の墓（やましたけのはか）

S57.3.18 指定

豊島石の高さ85㎝、32×28㎝、四角柱の墓としては天正17年(1589)という古い年銘が貴重である。墓の主の山下祐徳は八浜八幡宮の棟札に特別な地位として書かれている。

17 大崎八幡宮宮山一帯（おおさきはちまんぐうみやまいったい）

S33.2.27 指定

創建は、平清盛の父忠盛が水軍の護り神、市杵島姫を祀ったとされる。社殿を囲むシイ、クスなどの常緑の高木は、神聖な社の森として大切にされてきたもので、原生林の面影を残している。

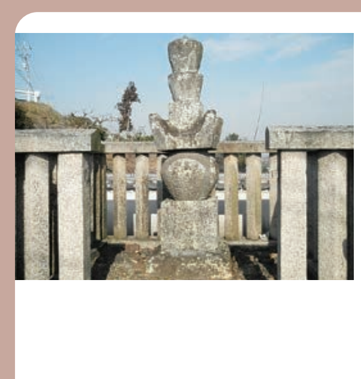
18 友林堂（ゆうりんどう）

S52.1.14 指定

石灯籠に文化２年(1805)と刻まれている、この頃に建立した戸川幽林の位牌を祀る霊廟である。主体部は*千鳥破風の*入母屋造り、入口向拝は*唐破風を付し、重厚な建築手法を用いている。内部の格天井には花鳥風月を、*位牌段内陣は幾何学模様を描いた装飾を施している。

19 戸川幽林の墓（とがわゆうりんのはか）

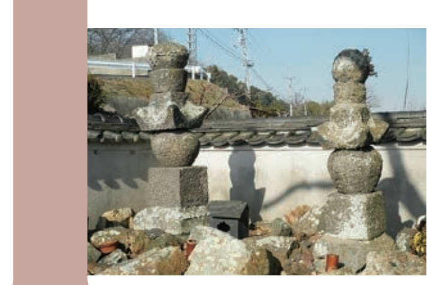
S36.3.27 指定



戸川幽林(幽林＝友林、戸川秀安の入道後の名)は、宇喜多直家に仕え、天正13年(1585)常山城を預かる。高さ245㎝、台座に反花、地輪に「防授居士」(幽林の戒名)、右に「慶長二年(1597)」、左に「九月上浣(月の上旬)六日」、五輪は上から「妙、法、蓮、華、経」と刻まれている。

19 日賢・日教の墓（にっけん・にっきょうのはか）

S36.3.27 指定



左が日賢で「妙法蓮華経日賢　慶長三年(1598)五月朔日」とあり、右は「妙法蓮華経日教　慶長四年‥‥」と刻まれている。ともに友林の家臣と伝えられている。

未指定文化財

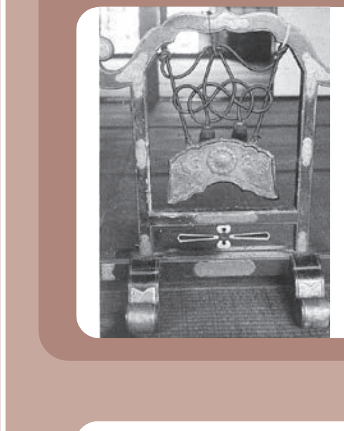
宗蔵寺の宝篋印塔（しゅうぞうじのほうきょういんとう）

宝篋印塔とは「お経の陀羅尼(梵文の呪文を翻訳しないで、そのまま読誦するもの)を納める宝の箱の塔」の意。最下段である基壇正面に「奉建立石塔、本願六十六部衆、恵林」、裏面に「天正五(1577)丁丑年三月二日」と彫られている。宗蔵寺の前身があった広木の衛相庵から大正年間に移された。

常楽院の石仏（じょうらくいんのせきぶつ）

豊島石製舟形光背、肉厚な浮彫りの石仏。室町時代末期の作と思われる。

磬（聴聞用具）（けい（ちょうもんようぐ））



読経・礼拝するとき導師が打ち鳴らす。南北朝時代後期(1400頃)の作と思われる。東児七か寺で持ち廻りのものである。聴聞行事は増吽の創めたもので600年間連綿と続いている。

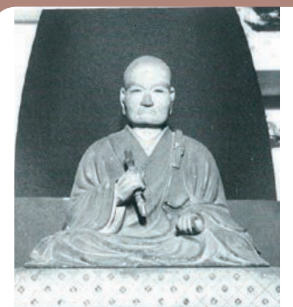
日比往来道標（ひびおうらいどうひょう）

江戸時代後期、日比港から由加神社まで、一丁毎に丁石を据えた。現在はそのうち16本が残っている。日比港の元標に「是より由加山え九十六丁」「弘化四(1847年)丁未歳正月吉日」等と刻まれている。

八浜往来・へんろ道標（はちはまおうらい・へんろどうひょう）

八浜の町並の中央に道標がある。正面に「快神社」、右面に「直ぐ遍路道」、左面に「由が金ひら」と刻まれ、由加・金毘羅往来の出発を示している。裏面には「嘉永元年(1848)次戊申五月」と刻まれている。

増吽僧正坐像（ぞううんそうじょうざぞう）



応永から文安、宝徳にかけ(1400〜1449)県下各地や讃岐路の寺々を復興した真言僧で、仏画をよくし、版木も各所に残している。玉野市にはことに増吽僧正中興の伝承が多い。山田の無動院で宝徳元年(1447)84歳で入定した。木像は無動院に保管されている。

大槌島境界論争裁許状（おおづちじまきょうかいろんそうさいきょじょう）

享保16年(1731)、日比、利生、渋川の３ケ村と讃岐香西西浦とが漁業権を争った裁許状(判決書)。以来大槌島は県境の島となった。

番田の立石（ばんだのたていし）

高さ約９m、大石や大木に神の宿ることを信じ、原始的祀りを行っていた。航海の目印ともなっていた。

玉比咩神社の立石（たまひめじんじゃのたていし）

高さ約11m、霊石としてあがめた原始信仰の名残である。

化粧地蔵（けしょうじぞう）

東児、八浜地区では子供たちが地蔵に化粧をする風習がある。舟人か商人によって京都からもたらされたと伝えられる。

宮山遺跡等の旧石器〜縄文時代の石器（みややまいせきとうのきゅうせっき〜じょうもんじだいのせっき）

旧石器時代(人類史上で最古の時代)の石器。香川県のサヌカイトという安山岩を打ちかいて先を尖らせた尖頭器、縦長石器、細石器が発見されている。打製石器や骨角器を用い採集、狩猟、漁労だけで食糧をえていた。旧石器は宮田山(渋川)、日の出(築港)、出崎(山田)などからも発見されている。

20 常山城跡（つねやまじょうし）

S39.6.25 指定

常山山頂にある。戦国時代初めに上野氏によって築城され、天正3年(1575)の常山合戦で、上野隆徳と妻鶴姫らが毛利方の小早川隆景に滅ぼされた。その後、宇喜多氏の重臣戸川氏が秀安(ひでやす)・逵安(みちやす)の二代にわたって城主となり、関ヶ原の合戦の少しあとに廃城となった。

21 薬師坐像（やくしざぞう）

正蔵院

S33.1.9 指定

藤原時代(894年〜 1185年)の木造寄木造りで、現在は修復もなされ、重厚な本尊となっている。像高97㎝、近世以前にも何度か修復されている。脇侍仏は左に日光菩薩、右に月光菩薩。

22 十一面観音立像（じゅういちめんかんのんりゅうぞう）

観音院

S34.5.7 指定

木彫寄木造り、像高１m弱、頭上の十一面の仏は約10㎝ある。おだやかな面相、細身の肉付、衣紋等から平安時代後期の様式を備えた彫刻である。50年に一度開扉される秘仏である。

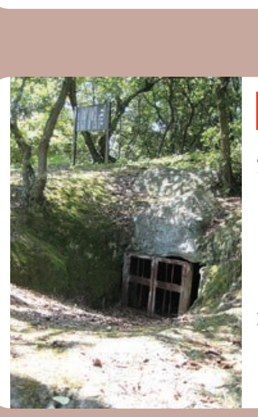
23 玉野の盆おどり（たまののぼんおどり）

S57.3.18 指定

太鼓の調子・音から「カッカラカ」の愛称で親しまれている。盆踊りが、先祖の霊を迎え慰めるとともに、大衆の娯楽として引継がれている。７〜８月、市内の各地区で行われる。

24 孫座古墳（まござこふん）

S36.3.27 指定



６世紀末(古墳時代後期)の古墳、墳丘は径約13mの横穴式石室を持つ円墳である。玄室(埋葬場所)の奥行き3.3m、幅1.6m、高さ1.8m、*右片袖式である。被葬者は、地域の重要な地位にあった人物と想像していいだろう。

25 聖観音立像（しょうかんのんりゅうぞう）

無動院

S34.5.7 指定

樟の一木造りで像高82㎝。左右均整のとれた衣紋の流れなどは平安時代後期の特色である。応永年間(1420頃)増吽僧正の再興で栄えた当寺の本尊としてまつられた。

26 聖観音立像（しょうかんのんりゅうぞう）

龍乗院

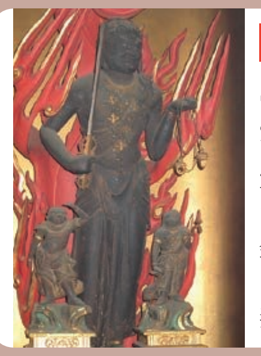
S49.12.26 指定

室町時代初期の作、像高60㎝、木彫寄木造り、漆仕上げである。左手に蓮華、右手を顔まであげて念じている姿は、市内の他の観音像とは異なっている。

27 不動明王立像（ふどうみょうおうりゅうぞう）

常楽院

S49.12.26 指定



室町時代初期の作、体長72㎝、桧材寄木造りで麻布を貼った下地に漆仕上げ、黒漆の上の金(漆箔か截金の金)と後背の赤が印象的である。左足を前にして立ち、やや腰をひねった姿は波切不動の代表的なものである。

28 大師画像（たいしがぞう）

三宝院

S49.12.26 指定

室町時代中期、増吽僧正が描いたと伝えられている。「お大師さまは、高野山の樹下におられ、魂は浄土に遊行されている。お大師さまは足跡の地に、毎日のように来て、今も人々を救っている。」と、墨書きされている。

29 地蔵菩薩立像（じぞうぼさつりゅうぞう）

三宝院

S49.12.26 指定

鎌倉時代末期の作、像高45㎝、台座とも86㎝、木造寄木造り、麻布を貼り漆仕上げをしている。人間的な風貌(すがたかたち)をし、素朴さが出ている。

30 木造　阿弥陀如来立像（もくぞう　あみだにょらいりゅうぞう）

三宝院　H30.2.27 指定

鎌倉時代(推定)の作。像高77.8cm、一木割矧造り、仕上げは漆箔。左足を少し前に踏み出し、左手は垂下、右手は屈臂し第一・二指を捻じて来迎印を結んでいる。螺髪は大粒、太い耳たぶ、くっきりとした弓形の眉、つり上がった目尻、引き締まった口端など、強く整った容貌の阿弥陀如来である。

31 地蔵菩薩立像（じぞうぼさつりゅうぞう）

中蔵院

S49.12.26 指定

室町時代の作、像高58㎝の桧材寄木造りで、極彩色。ガラス製の白毫、胸を飾る瓔珞(頭、首、胸にかける装身具)、衣紋、花模様の描かれた袈裟(僧侶が左肩から右わき下にかけて衣の上をおおう長方形の布)に目をひかれる。

32 阿弥陀如来立像（あみだにょらいりゅうぞう）

明王院　S49.12.26 指定

室町時代の作、像高49㎝、桧材寄木造り、表面の彩色が剥がれて木地が見えるが、漆塗り金箔押しであった。上品下生(手の形・印相を表す。上品は人差し指と親指で輪を作る、下生は右手を上げ左手を垂らしている。)の印を結んだ阿弥陀仏である。

33 聴聞行事（ちょうもんぎょうじ）

S49.12.26 指定

聴聞とは、仏教の教法を聞いて身につけること。600年程前から東児島の真言宗寺院が結集して始められた。現在では、東児地区の七ヶ寺が交代で弘法大師、檀家先祖の供養をする。

34 石島の弥生式集団墓（いしまのやよいしきしゅうだんぼ）

S49.12.26 指定

土に穴を掘った状態で平墓である。背筋と両足を伸ばした伸展葬で、周りに10〜20㎝の丸石を並べている。墓域は60m×20m程で数十基以上、元来はもっと広く数も多かったであろう。

35 出崎の和鏡（でさきのわきょう）

S33.1.9 指定

平安時代末期のものと考えられる。当時わが国でも、技術、文様等日本独特の鏡が作られるようになった。それが和鏡である。姿見としてではなく、神聖なものとして扱われた。

36 菅井の和鏡（すがいのわきょう）

S43.1.11 指定

上)鏡の中央にひもを通す孔、いわゆる紐(つまみ)がある。周りを紐座といい、和様の菊紋が描かれていることから、平安時代後期から鎌倉時代のものとうかがえる。

下)径11cm、紐座は菊座で11弁の菊花、内外面に７つの草花、雀が2羽、蝶が４匹描かれている。制作年代は、平安時代のものとうかがえる。

37 平形銅剣（ひらかたどうけん）

個人所蔵　S33.1.9 指定

昭和22年に由加山で出土。幅6cm、両突起部10cm、長さ46cmで、「連続渦巻紋(水流のうず巻きの形を文様とした。)、綾杉紋(杉の薄板を網のように編んだ文様。」が施されている。権威の象徴または祭器として敬い用いた。銅剣や銅鐸は、弥生時代初期に朝鮮半島を経由して伝来。作成時期により3種類に分けて、弥生時代初期は「細形」、中期が「中細形」、後期が「平形」に分類されている。

38 懸仏基板（かけぼとけきばん）

早瀧比咩神社　H26.3.25 指定

直径60.3㎝の円盤で、懸仏(円面に仏の姿を表して柱などにかけて礼拝したもの)の基板である。裏面には文安二年(1445)二月に阿波国守護大名細川氏の家臣で用吉で政治を行った飯尾因幡守入道真覚が奉納したことが書かれている。

国登録有形文化財

39 龍乗院本堂・鐘楼門・石段・石垣（りゅうじょういんほんどう・しょうろうもん・いしだん・いしがき）

H19.7.31 登録

本堂は文政２年(1819)の建築で、木造平屋建、*入母屋造、*本瓦葺、*唐破風を付けた式台玄関を配する。鐘楼門は下層を鉄筋コンクリート造、上層を木造とする特異な混合構造で、下層に白色タイルと花崗岩を貼ってモダンなデザインとしている。

40 旧専売局味野収納所山田出張所〔庁舎〕、〔文庫〕（きゅうせんばいきょくあじのしゅうのうしょやまだしゅっちょうしょ〔ちょうしゃ〕、〔ぶんこ〕）

H23.10.28 登録

庁舎:木造平屋建、瓦葺、236㎡、明治41年(1910)建築、文庫:レンガ造平屋建、瓦葺、27㎡、明治41年(1910)建築。ともに製塩の歴史を伝え、意匠を凝らした建築が評価された。山田村役場、玉野市山田支所として使用されたこともある。

＊

千鳥破風（ちどりはふ）… 屋根の斜面に取り付けた三角形の合掌形の装飾板。

入母屋造り（いりもやづくり）… 上部は二方へ下部は四方へ勾配の有る屋根。

唐破風（からはふ）… そり曲がった曲線状の破風、玄関、門などの屋根、軒に多い。

本瓦葺（ほんかわらぶき）… 平瓦と丸瓦とを交互に用いて葺いた屋根。

位牌段内陣（いはいだんないじん）… 死者の俗名や戒名を記した木の札を安置している場所。

右片袖（みぎかたそで）… 玄室（棺を安置する部屋）と羨道（外部と玄室を結ぶ通路）との接続部を袖部と呼ぶ。玄室から見て袖部が左右に広がっているものが「両袖型」、右が広がっているのが「右片袖型」、玄室と羨道が同じ幅で連続しているのが「無袖型」と呼ぶ。

未指定文化財

建造物

名称	管理者	所在地	地図位置
胸上八幡宮本殿	胸上八幡宮	胸上 1503	H2
金剛寺客殿	金剛寺	八浜町八浜	E2

彫　刻

名称	管理者	所在地	地図位置
不動明王立像	明王院	番田 1571	H1
不動明王立像	三宝院	胸上 1730	H2
木造 阿弥陀如来立像	三宝院		
延命地蔵	三宝院		
不動明王立像	正蔵院	滝 642	B5
毘沙門天立像	毘沙門堂	玉５丁目	D6
増長天立像	常楽院	梶岡 434	G2
阿弥陀如来立像	常楽院		
聖観音菩薩立像	持性院	迫間 1511	C5
毘沙門天立像	大聖寺	玉１丁目	D6
薬師如来坐像	久昌寺	用吉 415	B4
宝冠釈迦坐像	普門寺	八浜町碁石	E1
増吽僧正坐像	無動院	山田	G2

絵　画

名称	管理者	所在地	地図位置
阿弥陀如来画像	常楽院	梶岡 434	G2
阿弥陀如来来迎図	持性院	迫間 1511	C5
不動明王画像	三宝院	胸上 1730	H2
弘法大師画像	観音院	日比２丁目	D7
不動明王画像	観音院		
五大尊明王画像	観音院		
金剛界曼荼羅図	金剛寺	八浜町八浜	E2
胎蔵界曼荼羅図	金剛寺		
涅槃画像	蓮華庵	田井４丁目	E4

古文書

名称	管理者	所在地	地図位置
大槌島境界論争裁許状	教育委員会		E5

市内の石造物

名称	管理者	所在地	地図位置
宗蔵寺の宝篋印塔	宗蔵寺	八浜町八浜	E2
キリシタン灯籠	観音院	日比２丁目	D7
日吉神社石灯籠	日吉神社	田井	E3
宇喜多基家の墓	与太郎神社	八浜町大崎	D2
常楽院の石仏	常楽院	梶岡	G2
琴竜庵の石仏	琴龍庵	小島地	B4
弘法寺の石仏	弘法寺	和田１丁目	D6
化粧地蔵		八浜、 東児一帯	
常夜灯　胸上港(明治８年)	胸上地区	胸上	H2
常夜灯　山田港(嘉永５年)	塩釜神社	東野崎	G2
四面地蔵	用吉地区	用吉	B4
柳畑古戦場五輪塔	大崎地区	大崎	D3
長兵衛地蔵	円明院	宇野	E5
六尺地蔵	観音院	日比	D7
お菊明神		向日比	D7
浜の神様	渋川八幡宮	渋川	C7

民俗資料

名称	管理者	所在地	地図位置
胸上のだんじり	胸上八幡宮	胸上	H2

工芸考古

名称	管理者	所在地	地図位置
金剛廃寺単弁蓮華文軒丸瓦及平瓦	教育委員会		E5
鰐口	金剛寺	八浜町八浜	E2
磬（聴聞用具）	東児結衆	東児地区	
鬼瓦	正蔵院	滝 642	B5
絵小筥	御前八幡宮	御崎２	D7
奉納の太刀	御前八幡宮		
大和船の絵馬	八浜八幡宮	県立博物館	

市内の井戸

名称	管理者	所在地	地図位置
六角井戸		八浜町八浜	E2
殿川の井戸		八浜町大崎	D3
硯井		八浜町大崎	C3
三ツ井戸		宇藤木	B3
波知の奥井戸		八浜町波知	E2

史　跡

名称	管理者	所在地	地図位置
麦飯山城跡・横田山城跡		槌ケ原・大崎	C3
両児山城跡		八浜町八浜	E2
小丸山城跡		八浜町波知	E2
円山城跡		沼	G4
高畠城跡		上山坂	G1
四宮城跡		向日比	D7
怒塚山城跡		八浜町見石	E1
増吽僧正旧蹟	無動院	山田	G2

歴史の道・由加古道

名称	管理者	所在地	地図位置
日比往来古道		赤線	
日比往来道標		赤●	
八浜往来古道		青線	
八浜往来・へんろ道標		青●	
胸上の道路元標	胸上公会堂	胸上	H2

幕末の台場跡

名称	管理者	所在地	地図位置
胸上台場跡		胸上	H2

近代化・産業遺産

名称	年代	所在地	地図位置
東野崎浜石垣等	北浜 文久３年 南浜 天保 12 年	山田	G2
宇野線田井のガードトンネル	明治 43 年	田井	E4
宇野線宇藤木の鉄橋 (加茂川橋梁)	明治 43 年	宇藤木	B3
旧宇高連絡船岸壁遺構	昭和 24 年	宇野	E5
水道記念碑	大正９年５月	宇野	E5
太郎煙突 (三井金属日比製煉所大煙突） 高さ 60 m	大正６年	日比	D7
八浜町並み保存拠点施設 (旧藤原元太郎邸)	江戸末期から大正	八浜町八浜	E2
鉾立小学校	昭和７年	北方	H1
塩田跡地	大正から 昭和 33 年頃まで	青の網掛部分	

市内の名木・古木

名称	所在地		地図位置
見返りの桜（ヤマザクラ） 幹太さ 2.1 m、高さ 10 数m 樹齢 400 年	深山公園	田井	D4
神木の楠 幹太さ 4.3 m、高さ 30 m 樹齢 700 年	田井八幡宮	田井	E4

石器時代〜古墳時代遺跡

名称	時代	所在地	立地	地図位置
宮田山遺跡	旧石器〜弥生	渋川	山頂	C7
宮山遺跡	旧石器・縄文	日比	山頂	D7
王子ケ岳遺跡	旧石器〜弥生	渋川	山稜	B7
出崎遺跡	古墳	出崎	山稜・入江	G3・4 H4
灰出遺跡	古墳	沼　灰出		G4
沖須賀遺跡	古墳〜鎌倉	後閑	入江	G3
波張崎遺跡	縄文	胸上	入江・台地	H2
貝殻山遺跡	弥生	上山坂	山頂	G1
木目遺跡	弥生・古墳	木目	丘陵・台地	B4
地蔵山遺跡	古墳	向日比	山稜	D7

市内の古墳

名称	時代	所在地	立地	地図位置
滝古墳群	古墳	滝	丘陵稜線上	B5
石島西１号墳	後期古墳	石島	稜線	H5
先祖山古墳群	古墳	滝	稜線	B5
獺越古墳	古墳中期末	玉野市生涯学習センター		C7

古代祭祀遺跡

名称	時代	所在地	立地	地図位置
番田の立石		番田	稜線上	I1
由加神社の磐座	古代〜近世	胸上	稜線上	H2
金甲山の磐座		八浜町波知	山頂	F2
玉比咩神社の立石		玉５丁目	海岸近く	D6
亀石	亀山八幡宮	番田	丘	H1

寺院・神社

児島88ヶ所霊場 及び 文化財を保有する寺院

名称		地図位置
１番	中蔵院	H1
２番	瑞泉院	H1
３番	福寿院	G1
４〜６番	三宝院	H2
７番	常楽院	G2
８番	龍乗院	G2
９番	無動院	G2
10 番	常泉院	G2
11 番	円通庵	F2
12 番	清水庵	F2
13 番	慈照院	E4
14 番	蓮華庵	E4
15 番	円明院	E5
16 番	弘法寺	D6
17 番	観音院	D7
18 番	金剛庵	C7
61 番	久昌寺	B4
62 番	洞泉庵	B4
63 番	琴龍庵	B4
65 番	正蔵院	B5
66 番	長性庵	B5
67 番	持性院	C5
68 番	寂光庵	C4
69 番	福寿庵	D3
70 番	大師堂	A6
71 番	宝積院	F3
72 番	蓮光院	E2
73 番	金剛寺	E2
74 番	宗蔵寺	E2
75 番	大雲寺	E1
76 番	普門寺	E1
88 番	明王院	H1
	大聖寺	D6
	毘沙門堂	D6

各地の氏神 及び 文化財を保有する神社

名称	地図位置
加茂神社	B5
小島地八幡宮	B4
用吉八幡宮	B4
用吉天神宮	B4
五十猛神社	B5
鴨神社	B5
早瀧比咩神社	B5
槌ケ原八幡宮	C3
硯井天満宮	C3
大崎八幡宮	D3
八浜八幡宮	E2
日吉神社	E3
田井八幡宮	E4
宇野八幡宮	E5
玉比咩神社	D6
御前八幡宮	D7
渋川八幡宮	C7
大藪荒神社	F3
福浦荒神社	F3
後閑八幡宮	F3
熊野神社	G3
水守神社	G2
胸上八幡宮	H2
亀山八幡宮	H1
快神社	E2
飯神社	H2
与太郎神社	D2